

ドイツ連邦共和国 フランクフルト・アム・マイン市
シュテファン・ジークラー市議会議長による演説概要
(2016年1月12日)

林市長、
梶村議長、
御臨席の皆様、

本日はお招きにあずかり、嬉しく存じます。また、議会でお話をさせていただけることは、私にとりまして大きな荣誉であります。ご懇篤なご招待をいただき、また暖かくお迎えくださったことに、感謝申し上げます。

両市の市議会間の友好関係は、非常に価値のあるものであり、この関係を一層確固たるものにするには、大変重要なことだと思います。この関係は、日本とドイツの友好のシンボルです。横浜市は 2011 年の議会の後押しによって、フランクフルト・アム・マイン市とのパートナーシップに向けて、舵を切りました。この機会にフランクフルト市議会議長として、この決定をされたことに御礼を申し上げたいと思います。なぜならこの数年の間に、この後押しがいかに正しく、良い決定であったことが示されたからです。

フェルトマン市長はすでに、パートナーシップの枠組において行われた多くの活動のうち、いくつかを挙げられました。私個人としては、2011 年 11 月に横浜市議会の公式訪問団が、フランクフルト市を訪れた時のことを、とてもよく覚えております。当時の訪問団の団長は、佐藤（茂）前議長でした。3 日間の日程のハイライトのひとつが、フランクフルト・コメルツバンク・アリーナで行った、両市の市会議員チームのサッカーの試合であったことは、疑う余地がありません。あのスタジアムは何と言っても、日本のなでしこチームが世界一になったスタジアムです。

恐ろしい自然災害と福島における原発事故の後、日本の女子チームのあの偉大な勝利は、日本国民にとって、希望と復興の象徴となりました。2011 年のジャパンウィークのなかで開催された両市の市会議員によるサッカーの友好試合は、すべての参加者にとって特別な経験となり、われわれは皆、あの試合を振り返っては大きい喜びを感じるのです。

ドイツと日本の国歌が演奏される中、私たちは皆、正式な国際試合の場にいるような気持でした。私は、横浜のみなさんが飛行機から降りてすぐでなかったら、またサッカーシューズを履いていたら、結果はもう少し僅差だったであろうと確信しております。さらにその後、あの熊谷紗希選手が来てくれました。彼女はこのスタジアムでワールドカップ優勝を遂げたチームの一員であり、これはわれわれ全員にとって、とても、とても、すばらしい瞬間でした。今もあの時のことは、とても、とても、楽しく思い出しています。

このように私たちは、すばらしい感動を共有してきましたが、我々がおかれている状況に関しても、一度確認しておくことが重要です。佐藤（祐文）前議長は1年ほど前フランクフルトを訪問され、その時に両市の課題についてとても深い議論を交わしました。その際に、横浜もまた、非常な勢いで成長している都市であることを知りました。横浜が抱える問題は、規模としては多少小さくても、成長する都市フランクフルトが抱える問題と似ていることも学びました。都市の住民がどのような住宅を必要とするのか、また都市のインフラに関しても、どんな公共交通が必要なのか、都市の活動を維持するために必要なものは何か、などについても考える必要があります。また我々は温暖化防止についても、さらに当然のことながら、都市の成長に付随して生じる社会的な課題についても、考えなければなりません。

これらはすべて、われわれが共通して直面している問題であるだけでなく、市長と私が訪問した全てのパートナー都市が直面する問題でもあります。これらのテーマに関しては、意見交換を行って、どの都市にどのような解決策があるのかを知ることが常に有益です。そうすることによって、同じようなアイデアに行き着くこともあるでしょうが、新しいアイデアを知ること多いと思います。このような意見交換から、それぞれが多く利益を得ることができるので、これは都市間の友好や関係を深めるための効果的な方法であると、私は考えております。

その意味で、今日この場にいられること、そして今後数日間で、さらに興味深い、われわれ全員にとって意義のあるお話ができますことを、嬉しく思います。